

「保育園サーベイランスの現在の導入状況と園内活用推進に向けた

自治体の取り組みについて」〈その1〉 国立感染症研究所 菅原民枝 大日康史

「保育園サーベイランス（保育園欠席者・発症者情報収集システム）」は2007年から開発を始められ、2009年より本格運用されている「学校欠席者情報収集システム」を保育所向けに応用し、2012年8月より運用しています。現在導入している保育所は、2013年12月1日現在で、約6000園です。個別の保育所での導入から、自治体単位での導入があります。導入は3パターンあります。

パターン1は、個別の保育所で導入をしている場合です。保育園サーベイランスは、1園からでも導入は可能です。自分の保育所内の記録をしっかりと、サーベイランスをし、異常判定によるアラートを活用して、保育所内での感染症対策に役立てるためです。申し込みをしてIDを取得し、自分でマニュアルを参照しながら操作をしていただいています。しかし、周辺地域の情報が共有されていませんので、せっかく導入しても継続できる保育所は少ないです。

パターン2は、自治体での取り組みです。市区町村単位（あるいは県単位）で導入が決定した場合です。その中でも2つに分類されています。パターン2の1は、公立保育所のみでの場合です。パターン2の2は、公立保育所、私立保育所、公立こども園、私立こども園と認可保育園（あるいは認可外保育所も含まれていることもあります）の全てで導入する場合です。当初はまずは公立保育所から開始する自治体が多くありましたが、現在は全ての認可保育所で開始する自治体が多くなってきています。このパターン2の1と2の2はいずれも、保育所のみで開始している場合です。地域内のすべての保育所の状況がリアルタイムで把握できることができ、周辺の状況を把握できます。しかし学校の状況は把握できません。保育所にとって感染症対策をする上できょうだい関係である小学校、中学校の状況を把握しておくことは重要です。

パターン3は、自治体での取り組みで学校と保育所が同時に導入する場合です。地域内の全ての学校の状況がリアルタイムで把握でき、きょうだい関係の感染状況を把握できます。現在、こうした取り組みができている都道府県は4つあり、茨城県、群馬県、奈良県、三重県です。学校が導入しており、保育所は一部（希望したところ）が導入されている都道府県もあります。最近では、保育所が先行して導入し、続いて学校が開始される場合も増えてきています。

次号では、園内活用に向けた研修について説明します。

	パターン1	パターン2の1	パターン2の2	パターン3
導入状況	個別の保育所のみ	公立保育所のみ	認可保育園の全てで導入（あるいは認可外も）	学校と保育所が同時に導入
メリット	参加しやすい	導入決定されやすい	地域内のすべての保育所の状況がリアルタイムで把握できる	地域内の全ての学校の状況がリアルタイムで把握できる、きょうだい関係の感染状況を把握できる
デメリット	継続しない場合が多い	地域内の他の保育所の状況が把握できない	学校の状況が把握できない	なし

「保育園サーベイランスの現在の導入状況と園内活用推進に向けた

自治体の取り組みについて」〈その2〉 国立感染症研究所 菅原民枝 大日康史

保育園サーベイランスを安定的に運営していくためには、研修が必要です。保育所における感染症対策における日常の対応、すなわちサーベイランスの必要性について理解し、操作を習熟し、活用法を確認するといった段階（ステージ）に分けた研修です。

研修のステージには3つあります。ステージ1として自治体単位での導入での取り組み（パターン2及び3）の場合、サーベイランスの必要性について理解するために導入前説明会を行っています。行政担当者（保育課、教育委員会、感染症課、保健所等）での説明会を開催し、その後、必要に応じて園長会・校長会、看護師会・養護教諭会等説明会を開催しています。保育所数が少ない自治体においては、次の操作実習と同時に行うこともあります。

導入決定になると、研修のステージ2で、スタートアップ研修（操作実習）を入力担当者向けに行います。ここでは操作を習熟します。コンピューター室で行います。現在は操作実習の研修を実施しないで導入する例はほとんどありませんが、当初実習をすることができなかつた自治体もあり、そういった所では、基本的な操作が理解できず継続できていない保育所があるかもしれません。現在は、自治体導入ではこの実習を行うことで、初期設定の方法と日々の入力について習熟することもでき、スムーズな導入が可能となっています。

	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ3以降
時期	導入前	導入	導入後1～2年後	導入数年後
研修内容	必要性の理解	スタートアップ研修（操作実習） 操作の習熟	フォローアップ研修（活用実習） 活用法の確認	自治体独自研修（園長会での検討、事例発表会等）
対象者	行政担当者（保育課、感染症課、保健所等） 必要に応じて園長、看護師、保育士等	入力担当者	入力担当者	入力担当者 看護師 園長等

導入後は、研修のステージ3で、フォローアップ研修（活用実習）を入力担当者向けに行います。ここでは活用法を確認します。研修の前にはチェックシート（表1）を付けます。そこで、システム内にある機能で十分に使いこなしていなかった機能があることに、自身で気がついてフォローアップ研修に参加します。研修はコンピューター室で行います。自施設のIDとパスワードを持参し、日頃見ている画面を使って、チェックシートの内容

にそって行います。クラス単位で自施設を「参照」することで、欠席者が急増している場合に異常を自動判定されるアラートを確認します。アラートが出ている場合には、グラフを参照し、グラフの意味を解説し、グラフの使い方を示します。こうしてデータを参照することで、いつ、誰に対して、何を、どのようにするのか、つまり園内の感染症対策に結びつけます。

サーベイランスは、入力が目的なのではなく対応をすることが目的です。そのためには、データを「情報」にすることで改めて説明をします。例えば、5歳クラスで発熱者が急増していることが「データ」で確認された場合、どうしますか？と問いかけます。アラートが自動判定されたことを確認し、グラフで確認します。2週間のグラフ、1か月の

表1 チェックシート

<input type="checkbox"/> 各クラスインフルエンザ「グラフ」を見たことがある
<input type="checkbox"/> 保育所全体のインフルエンザ「グラフ」を見たことがある
<input type="checkbox"/> 保育所全体の発熱「グラフ」の一年間を見たことがある
<input type="checkbox"/> 保育所全体の発熱のデータを「CSVダウンロード」したことがある
<input type="checkbox"/> インフルエンザの「地図」を見たことがある
<input type="checkbox"/> 水痘の「地図」を見たことがある
<input type="checkbox"/> 市町村単位のインフルエンザ「罹患率」を見たことがある
<input type="checkbox"/> 市町村単位の水痘「流行曲線」を見たことがある
<input type="checkbox"/> 月報を印刷したことがある
<input type="checkbox"/> 嘱託医（園医）のパスワードを、嘱託医に渡している

グラフを使い、急な発生であるのか、持続した状況で急増したのかを確認します。他のクラスでの発生状況を確認し、園全体での発生状況を確認します。そして、担任と状況を共有し、どのように保護者に情報を伝えるのかを協議します（この後、どのように保護者に情報を伝えるのか、保護者にどのように園内での感染まん延防止策にご協力いただく体制を作っていくのかといったことにつながります。）。

次に、園内では発症者がいないが、周辺地域での状況を地図で確認します。周辺の保育所で発症者がいるのかいないのかを確認することで、園内で今後発症者が出るかもしれないことを想定した事前の準備をすることができます。地図は市町村の中学校区単位で確認できます。隣の市町村を確認することもできます。県全体でも確認することもできます。現在の地域内の流行状況を正確に把握することができます。

その他、園内の疾患ごとの罹患率、流行曲線を算出して、期間の流行状況を確認します。また園医から日頃から予防指導を受け、連携がしやすくなっている機能を確認します。こういった実技の実習を通して、システム内の機能を理解して活用法を確認します。

こうしたフォローアップ研修を終えると、ほとんどの保育所における感染症に対する基礎的な知識も対応策の技量のレベルが上がります。フォローアップ研修を実施する自治体が増えてきました。あわせて必要性の確認や操作法の確認も同時に行います。その後は、自治体内での独自の研修が行われます。その独自研修について今後報告をしていただきます。